



野生植物研究所だより



● ミスミソウとスハマソウ ●

3月6日、2年前に購入し庭の片隅に植えたミスミソウとスハマソウを見てみると、蕾が膨らんで花が咲き始めた状態でした。これらの植物はキンポウゲ科の植物で、普通「ユキワリソウ」と言われています。



ミスミソウ

ミスミソウもスハマソウも、山地の樹木の下などに生える多年草で、高さは5～10cm位で、葉はすべて根ぎわから出ます。葉の形は、葉柄の付けねの部分には心臓形ですが、前の部分は浅く3つにくびれています。ミスミソウの葉は先端部が尖っていますが、スハマソウの葉の先端部は丸みがかっています。どちらも葉の特徴から名前が付けられています。

【ミスミソウ】葉に「三つの角がある」ことから付いた名前です。

【スハマソウ】海岸線にある曲線的な出入りの浜辺を「州浜」と言います。葉の“洲”が大きくなることから「州浜」に由来して付いた名前です。



スハマソウ

花の大きさは、ミスミソウで1.7cmほどありますが、スハマソウは少し小振りになります。花の色は白が普通ですが、時には紅色、紫など様々で大変変化に富んでいます。その変化に富んだ、普通花卉と思って見ているものは、みな「萼片」なのです。

● キンポウゲ科の植物 ●

ミスミソウとスハマソウはキンポウゲ科ミスミソウ属の植物です。春咲きの草花には、キンポウゲ科の植物が数多く見られます。フクジュソウもその一つです。皆さんのお庭のフクジュソウも、今が見頃ではないでしょうか。

【アネモネ属】 これからまもなく宮城県内各地の山地や山すそなどの林下やその周辺のじめじめしたところに、ニリンソウやキクザキイチリンソウ、アズマイチゲの花が咲き出します。時には大群落に出会い、その場に釘付けになることもあります。これらの植物は、キンポウゲ科アネモネ属の植物です。花壇などに植えられるアネモネは、ヨーロッパ南部から地中海東部沿岸地域に分布するものが栽培されていると言われています。花壇などに見られるものは、花の色が派手で、花の大きさも大きいものが多いようですが、やはりアネモネ属・・・日本のものと似ているところも多いようです。

【オウレン属】 広く知られている薬草の「オウレン」もキンポウゲ科の植物です。宮城県内に自生するものとして、オウレンの他にセリバオウレン、ミツバオウレン、ミツババカオウレンがあります。

【キンポウゲ属】 キツネノボタン、ウマノアシガタなど、黄色い花をつける植物も見られます。



フクジュソウ



ニリンソウ

春を知らせる大風が吹く日もあり、いよいよ心待ちにしていた暖かい春が間近に感じられるようになりました。もうすぐ、春を彩る植物が次々と花を咲かせることでしょう。時にはカラーの植物図鑑などを開いてみるのもよいのではないのでしょうか。

【連絡先】 〒989-6252 宮城県古川市荒谷字箕ノ子町 12-2 ☎ 0229-28-3601 FAX 0229-28-4452

Blog: <http://plaza.rakuten.co.jp/wakichi/> E-mail: nagaguduwakichi@yahoo.co.jp

URL: <http://www.wakichi.com/>